



風が吹けば、  
枯葉が落ちる。  
枯葉が落ちれば、  
土が肥える。  
土が肥えれば、  
果実が実る。  
こつこつ、ゆっくり。  
人生、フルーツ。

## むかし、ある建築家が言いました。 家は、暮らしの宝石箱でなくてははいけない。

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうにかわります。刺繍や編み物から機織りまで、なんでもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。そう、「家は、暮らしの宝石箱でなくてははいけない」とは、モダニズムの巨匠ル・コルビュジエの言葉です。



かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは、阿佐ヶ谷住宅や多摩平団地などの都市計画に携わってきました。1960年代、風の通り道になる雑木林を残し、自然との共生を目指したニュータウンを計画。けれど、経済優先の時代はそれを許さず、完成したのは理想とはほど遠い無機質な大規模団地。修一さんは、それまでの仕事から距離を置き、自ら手がけたニュータウンに土地を買い、家を見て、雑木林を育てはじめました。あれから50年、ふたりは、コツコツ、ていねいに、時をためてきました。そして、90歳になった修一さんに新たな仕事の依頼がやってきます。

本作は東海テレビドキュメンタリー劇場第10弾。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの来し方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります。

### ふたりのこと

#### 修一さん

1925年1月3日生まれ。東京大学卒業後、建築設計事務所を経て、日本住宅公団へ。数々の都市計画を手掛ける。



#### 英子さん

1928年1月18日生まれ。老舗の造り酒屋で育つ。27歳で修一さんと結婚。娘2人を育てる。手間ひまかけた手仕事大好き。

### ふたりの本



あしたも、こはるびより。  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(主婦と生活社、2011)



ききがたり  
ときをためる暮らし  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(自然食通信社、2012)



ひでこさんのたからもの。  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(主婦と生活社、2015)



最新刊 2016年11月24日刊行  
ふたりからひとり  
～ときをためる暮らしそれから～  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(自然食通信社)

faxでのお申し込み ～人生フルーツ上映会へ

参加者名(代表者名)

住所

電話番号

X-URLアドレスもしくはFAX番号

参加人数

名

※0746-32-1785にお送り下さい